

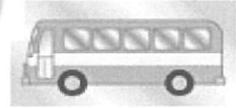
KSKR
No.49

発行2002年10月

バンジーだより

クリエイティブハウス

「バンジー」



「乗車拒否」事件

2002年8月上旬、はっしんきち「ザ☆ハート」の西尾健一さんが、ある事件に巻き込まれました。4月からザ☆ハートで働くことになってから、毎日の通勤に使っている近鉄バスで事件は起こりました。仕事を終え、いつも通りに近鉄バスに乗り込み、座席に座ったところ、運転手が近づいてきて、「今度から車椅子用のバスに乗ってもらえますか？」と言うのです。一体どういうことだろうと、西尾さんと介護者がたずねてみると、「車椅子の人が（リフト付きではない）このバスに乗るのは危険」「次にリフト付きのバスが来るので、それに乗ってほしい」「これからは時間を調べて、そのバスに合わせて乗ってほしい」「このバスだと車椅子の人が乗るのに時間がかかる」「急いでいる他のお客もいる」とのこと。疑問と怒りを募らせた2人が、「乗車拒否されているのですか」「近鉄バスでリフト付きバスを走らせているのは車椅子の人はそちらに乗ってくださいという意味なのですか」と反論しましたが、納得できる答えは返ってきませんでした。

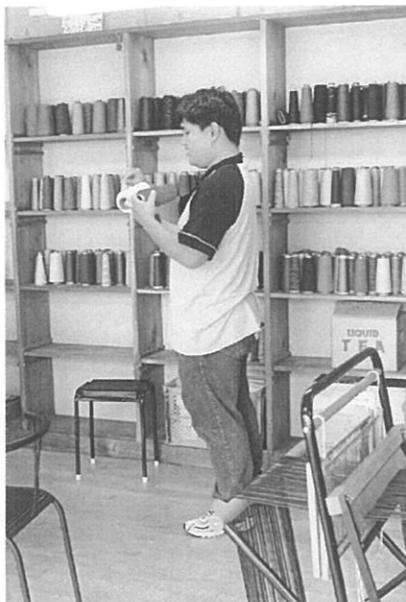
次の日に近鉄バスの本社に出向いての抗議、また午後からは責任者が謝罪に来ましたが、その時の対応も西尾さんが納得できるものではありませんでした。

2度目の抗議文をFAXしたところ、責任者と運転手が再度謝罪に来ました。その時の彼らの言葉には、私たちの言い分を理解されていると感じるものがありました。私が心を動かされたのは西尾さんが彼らに向けた言葉でした。「（障害者を）家に閉じこめている家庭と、施設に入れる家庭もあつたりするから、バスとか電車がしっかりしてもらわな困ります」

西尾さんは、いつものTシャツなどのラフなスタイルからシャツにネクタイと、気合を入れて話し合いに臨みました。いつもよりタバコやコーヒーの回数が増え、隣にいて緊張にしているのが分かったのですが、しっかりした物言いに加え、自分のことだけでなく、なかまのことも考えて意見を言う西尾さんを、私は頼もしく、また誇らしくも感じました。

ザ☆ハートは始まったばかりですが、今回の事件は、ザ☆ハートがピープルファースト事務所としてやっていく中で、大きな一歩になるのではないかと思います。
(支援者 福岡)

「ゆっくりペース」模索の日々



さをりの糸を選ぶ。
この色あいは・・・

四月から個人のケア・プランが立てられ、「ゆっくりペース」が始まった。これまでの作業中心の毎日から、一人ひとりのやりたい事、興味ある事にも時間を十分に使って、いろいろな生きる巾を拡げていきたいという願いからだ。

この4ヶ月間、作業・販売・配達のスケジュールの中で、個々のプランをどう消化し積み重ねていくか、支援する私たちは迷っていた。「やりたい事、好きな事を見つけ、力を伸ばす」というのはむずかしい。「やれる事」が本人の「好き」とは限らない場合が多いからだ。自閉症の人にとって「ゆっくり」「自由」は居心地が悪い、ストレスにもなる。そこで、ゆっくりペースにはならないが、安定した作業リズムは確保した上で、積極的に場面展開（配達の帰り、少し遠出してハイキングなど）を考える様にした。自閉症の人ではないが、ゲームをするのが好きというヒントから、パソコンを始めた人もいる。どの作業もあまり好きではなく、部屋で落ち着

いて過ごす事が少なかったが、パソコンに向かう時間は夢中で過ごすようになった。このような形で、何かが見つけられた時、ぐんと勇気が与えられる。個別で積み重ねていく事、集団で経験して何かをつかんでいく事、支援の方向は多種にわたっているが、皆の敏感なアンテナを期待しながら、今も模索している最中である。

クリエイティブの部屋にあったさをりの織機・糸など全てを、ホール隣の部屋に移動し、さをりの部屋が独立した。クリエイティブが広がったので、壁際にセラピーマットを敷き、「ゆっくりゴロ寝OK、皆で柔軟体操しましょう」空間が誕生した。どんなくつろぎスペースになるか、何でもやってみようと楽しみである。



(はたなか)

—P. S—

阪急池田駅構内さをり織り専門店「ショップ・ベガ」にパンジーのさをり製品をずっと出品させてもらっています。時間がありましたら、お立ち寄り下さい。

好川さん 就職おめでとう！



好川さんが7月1日付けで、フレンドリー野崎工場に就職しました。一週間という短期実習の後、すぐに採用していただいたのですが、2ヶ月がたった現在、トラブルもなく「まじめで一生懸命やってもらって感謝しています」と会社から暖かい評価をいただき「本当にいいところに就職できた」と好川さんと一緒に心の底から喜んでいきます。

しかし、好川さんのここまでの道のりは決して平坦ではありませんでした。

ハローワークの紹介でパンジーに通うようになって4年目。彼は、不況による解雇で離職するまで、二つの会社をあわせて7年間ほど一般就労

してきました。パンジーは大好きだけれど、やはりもう一度就職したいという希望を強く持っていました。そこで、たくさんの事業所で面接をしたり実習をしたりしてきました。どんな仕事でもまじめで一生懸命に取り組む好川さんですが、初対面の人とは緊張して言葉が出てきません。そのため、面接では支援者がフォローしても、なかなかきちんと評価してもらえませんでした。離職して、時間が経過したこともあり、準備訓練的な意味で、NPO法人大阪障害者雇用支援ネットワークの「インターンシップ制度」を利用して市内のクリーニング会社で10日間の実習も行いました。

今回、フレンドリー野崎工場に採用されたきっかけは、新しい工場長が着任されという話を聞き、知的障害者を3名雇用している事業所で以前からつながりがあったこともあり、ご挨拶に伺ったところからでした。新工場長から「もう一人雇ってもいいという話が出ているよ」というビッグニュースを聞いてすぐさま人材開発部の方と連絡を取り…というトントン拍子で話が進みました。

「小さな事からコツコツと」が実を結び嬉しい限りです。

(豆子)



フレンドリー野崎工場
働く好川さん



クリーニング会社で実習

ザ☆ハート旅行・珍道中

8月24・25日に、ザ☆ハートの旅行で琵琶湖に行きました。最初は、みんなでどこへ行くか話し合いました。三重県へ行くか琵琶湖に行くか悩みました。宿泊先を決めるのにも、値段やタバコのことなどで時間がかかりました。宿泊先やバーベキューをするためのキャンプ場や、車の手配の電話も自分達でした。少し緊張しました。

当日、ハートに集合して車2台に乗って9:30頃出発しました。しかし、問題が発生しました。渋滞です！ 京都から車がなかなか進まなくて、琵琶湖まで4時間かかりました。イライラしていた分、渋滞が終わると車を飛ばしました。

琵琶湖について早速泳ぎました。梅原さん生田さん肌勢さん、介護者の渡辺さんが入りました。気持ちよかったです。浮き輪でプカプカ浮きました。となりに水着ギャルがいたのでチラチラ見ときました。かんぼの宿でお風呂に入った後、生田さんがパチンコのゲームを、西尾くんが車のゲームをやっていました。楽しそうでした。夜は宿の近くでバーベキューと花火をしました。生田さんがロケット花火をやってしまってびっくりしました。生田さんとひろしさんはむちゃやをしていました。西尾さんも宮田さんもビールを飲んで楽しそうでした。ひろしさんは記憶をなくすほど酔っぱらいました。寝る前は怪談話をしました。生田さんの話が怖かったけどおもしろかったので、みんなでもっちゃ笑いました。



2日目は、山の方へにじますを釣りに行きました。釣った魚は家へ持って帰りました。それから琵琶湖を1周して帰りました。途中カーブがきつかったけど山の上から見た琵琶湖はきれいでした。景色がきれいなところで昼間用の花火をしました。キティちゃんが空からイッキに落ちてくる花火でした。一瞬だったのでみんなよく分かりませんでした。帰りも少し混んでました。とても楽しかった分、とても疲れしました。でもまた行きたいです。(ザ☆ハートの面々)

〈おまけ〉 次の日、中山さんが来年の旅行の話をしていました。みんなついていけませんでした。

ザ☆ハートより お知らせ

9月10日～11月10日に、芦原橋の大阪人権博物館で「障害者でええやんか！」という特別展が開催されています。そこで“ザ☆ハートの生田進さんの生活”が取り上げられ、展示されています。そっくり再現された生田さんの部屋や、日常生活を取材したビデオを見ることができます。

障害を持つ人(介助者含む)は入館料が無料です。どーぞ、見に行ってください。

好きなことをする時間

中新井澪子

九月に入ったの
いているが、でも

が虫の音に移っている。そんな秋風が待ち遠しい昨今、バンジーおよびバンジーⅡの皆は元気だ。

バンジーⅡのちょっと横になるのに格好の小部屋(なんとバンジーにもできたのだ)も今年は空いていることが多い。去年よく寝ていた人が、今春、ザ・ハートやバンジーへ異動したこともあるのだが、もっと大きな理由は、メンバーの入れ替わりに伴い、仕事の内容をゆったりしたものに変更したことだ。

弁当が使い捨ての容器になったので、弁当箱の回収や洗浄などの仕事が無くなった。午前中は配食の弁当作り、ハンガー組立、園芸の仕事など、各々ががんばっているが、午後から日によっては好きなことに挑戦する時間ができたのだ。営業や買い物に出かける、水泳にトライする、ジグソーパズルに夢中になる、階段を上がって二階へ行く、音楽に合わせてダンスをする、マンドリンをつまびく、アニメの主題歌を唱う、もちろんハンガーを組み立て続けるなど、色々なことをやっている。

授産施設の仕事中に何をしているのかと居眠り同様にあきれられる人も多いことだろうが、私はもっともっと絵をかいいたり、粘土をしたり、プラチーンでアクセサリーを作ったりなど、一人一人が楽しめるアクティビティーを見つけたいと思う。

好きなことに夢中になっている時は、誰でも脳が活性化して、眠くもならないし、寝ぼけてもいられない。皆イキイキとしていい笑顔で、行動抑制も効く。問題行動も起きない。こんな時間は、ぐっすり眠る時間と同様に誰にとっても不可欠なのだ。

私は、メンバーのケア会議に時々参加させてもらっているが、その時は「夢中になれる好きなことの有無」を確認することになっている。障害があるために、そんな好きなことに出会う機会が与えられなかったり、自分で見つけることができなかつた人もいる。また、夢中になっていることが、つまらないこと、年令にふさわしくないこととして、否定されたりしていることもあるようだ。

最近の研究で、青年期以降の自閉症の人の状態を決定している要素として、生活の中での習慣的役割と自由時間や一人の時間を過ごす「好きなこと」の有無が指摘されている。自閉症の人だけでなく、一人一人が夢中になれるものを見つけていくのも、バンジーの大切な仕事ではないかと思う。私はそれを心の棚卸と呼んでいる。機会が用意されると自分では気づかなかつた自分の欲求が見つけられ、支援者とともにチャレンジしたり、達成感を味わうこともできる。本当ならその上で何がしたいか、何ができるかを考え、1つ1つ積み重ねた延長に仕事や就労がある筈である。

しかし現実には、そう甘くない。授産施設も企業も、一人一人に合った仕事など用意されていない。いかに仕事に自分を合わせていかで、皆苦勞している。そんな中で疲れやイライラが生じてきているのだ。だからこそ、好きなことを思い切りやれる時間が必要なのだとつくづく思う。

に、まだ暑い日が続
いつの間にか蝉の声

ガイドヘルパー第3回研修会報告

ロールプレイを通して、支援について考える

7月27日(土)に3回目のガイドヘルパー研修会を開催しました。テーマは「自閉症の特徴とコミュニケーションの問題」で、講師は中新井濤子先生でした。

前半は、自閉症(広汎性発達障害)の特性、コミュニケーションの問題について学びました。①感覚機能に偏りがあると、不安や混乱を招く。そのことを、テンプル・グランディンという自閉症の当事者は「キーキーと声を上げ際限なく体をゆすり人との関わりを拒んでいた状態」「まるで万華鏡の世界に身をおき、雑音だけのラジオが、音量スイッチが故障したまま、鳴り響いたり突然消えたりしている」状態だった」と表現しているそうです。②聴覚の情報処理するより、視覚的な情報処理する機能の方が強い。③シングル・フォーカス、1回に一つの感覚しか使えない。④感情を表することが困難。⑤自発的なコミュニケーションの乏しさと表現の特異さ。これら5つのことが、自閉症の方々のコミュニケーションの問題の主なものと中新井先生は言います。

これらのことをふまえた支援する側の留意点は「当事者の理解していることと、感じていることと、周囲の状況からの刺激のギャップを埋める」・「視覚的、肯定的、具体的(一つずつ)な対応」・「物理的、環境の手かかりやルーティン(習慣やパターンの記憶に基づく活動)をうまく利用する」・「こだわりは大きな支障がなければOK」といったことでした。

後半は、今までのわくわく活動で実際に起こったことを当事者役とヘルパー役に分かれ実際にロールプレイをして感じた事を発表しました。ロールプレイとは「現実に似せた場面で、ある役割を模擬的に演じる」(大辞林より)ことです。

ヘルパーが当事者に話しかければ話しかけるほど、当事者がイライラしていく場面や、ある事にこだわり続けて、その場から離れようとしめない場面などを設定しました。

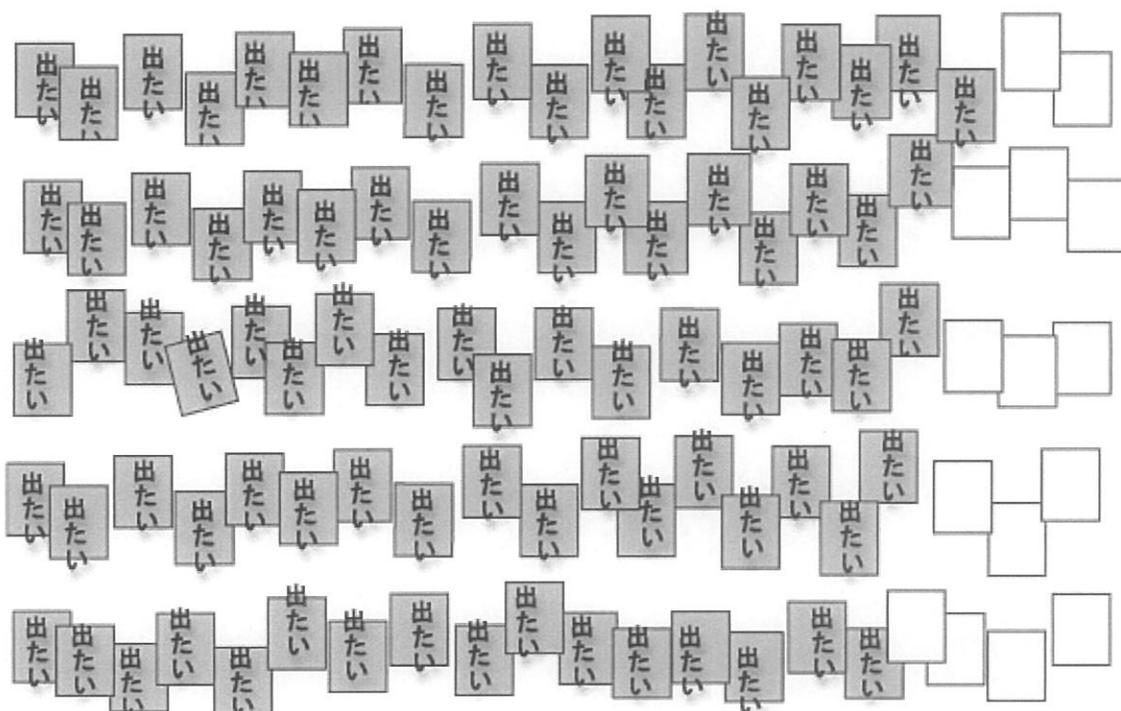
支援者役をした人からは「実際に頭では理解できていても、その場面での対応は難しい」、当事者役をした人からは「自分の気持ちが上手く通じない不満や恐怖感、圧迫感を体験した」との感想がありました。

そして、これらのロールプレイを通して、支援を行う時は様々な角度から当事者の気持ち、行動を考えていきたいという感想や意見がでました。

ガイドヘルパー活動で‘これが正しい’という支援はありませんが、当事者の人たちが本当に‘楽しい’‘良かった’という支援ができるような、今後の糧になる研修会になりました。

わくわく 竹内

緊急提言！ 入所施設はホントにいるの？



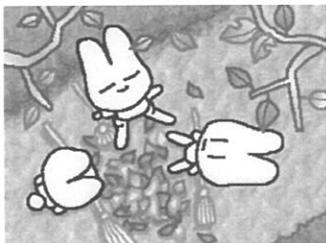
ここにあるのは、100枚の紙です。そのうち85枚が「出たい」とあります。さて、これは何でしょう？ 現在入所施設に入所している知的障害者は、全国に約10万人です。1000人を一枚の紙としたら、100枚の紙になります。そして、85%の人が「入所施設から出たい」と思っています。

一方で入所施設を希望している人（本人？ 親？）は、全国で6000人と厚生労働省は言っています。紙で表すと6枚になります。6000人のために、厚生労働省は入所施設を新しく作ろうとしています。

かえる会では、この100枚と6枚の紙を実際に並べて話し合いました。

毎年1万人（10枚）の人たちが入所施設から出て地域で生活をするようになったら、10年で入所施設はなくなります。定員50人の入所施設だと、毎年5人が地域生活をはじめる計算です。6000人が入所したとしても、毎年1万人が地域生活に移行するなら、新しい入所施設はいりません。とっても簡単な計算です。現在、立てられている障害者プランに、こんな具体的な数字を入れさせたい！

かえる会の人たちは、この話がとてもわかりやすかったそうです。入所施設を絶対に作らせへん！ と盛り上がりました。今後、大阪市が新しく3つの入所施設を建設する予定だと聞いています。なんとしても作らせたくない。ぜひ、当事者の人たちと100枚の紙を並べて見てください。



かえる会報告「○○ちゃん」ってよばれたら

なまえのよばれ方について話し合った。当事者が支援者に○○ちゃんってよばれるのは、あかん。子供扱いしてる。あたらしい職員が、えらそうにあだなでよんだりするのは、おかしい。年下の人が、年上の人にあだ名で呼んだり、呼び捨てするのはおかしい。でも、かたつくるしいのもイヤ。ともだちみたいにしゃべれる方が楽しいとも思う。いろいろ話し合っていたら、「むずかしい問題だな」と思った。

芝居をした。当事者と職員の役に別れて、当事者役の人は車いすに乗った。また、話すことのできない当事者の気持ちが分かるように、口にガムテープを貼ったり、タオルで隠したりした。職員が当事者に向かって「○○ちゃん」と呼ぶのと「○○さん」って呼ぶのを2種類やった。当事者役は、どんな気持ちになるのかを考えた。「○○ちゃんって呼ばれるのは、大人として扱われていないみたいでイヤだった」という意見が出た。

新しい職員が入ってきたら、自分たちでしっかり呼び方を注意していこうと思う。みなさんも、もし自分が「○○ちゃん」ってよばれたらどんな気持ちになるか考えてみてください。当事者は、立派な大人です。子供扱いされたくないです。

(生田・中山・宮田)

どらえもん会、わくわく会より 大阪府との交渉に行きました！

岡本 ピアカンやめたら嫌な気持ちになるから、やめないで欲しい。とかだいぶ言えてよかった。

青山 今年は時間がなくて発言ができなかった。簡単に上り降りできるように、駅にはエレベーターをつけてほしいなど、来年は発言したい。階段はしんどい。

田辺 松岡さんのことを発言した。ちょっと緊張したけど、言ってよかった。自立支援のことに興味があった。なんとなくはわかったが、難しかった。

溝端 みんな大阪府の人に怒ってはった。僕もガイヘルのことを言う予定してたのに、時間がなくて言えなかった。手はあげてたのにあたらなかった……。来年は言えたらいいな。

久保 ずっと中で話を聞いてた。わかった。



2002年 対大阪府交渉報告



7月30日(火)、8月2日(金)、日赤会館において2002年対大阪府交渉がありました。合計で約10時間に及ぶ交渉に大阪府下から約450人が参加しました。(パンジーは、要望を大阪府に伝える重要な場と位置づけ、毎年必ず参加しています)

＜介護の要求＞ 来年度の支援費制度に移行するにあたって、現行の大阪府の独自事業などが、うやむやのうちに廃止されたり、制度の引き下げがなされないかについて重点的に話しました。具体的には、現在、大阪府ではガイドヘルパーの自己負担金は本人所得に基づいています。それがホームヘルパー同様、家族の所得に基づき徴収されるようになったり、支援費に移行することで制度が使えなくなったり、現行の水準を下回るようなことのないよう確認しました。(このことは介護のみならず他の全てのことに關しても同様です)

＜グループホームの要求＞ 今年度は大阪府の経済的困窮を理由にして、障害者の地域移行を促進するべき自活訓練事業が廃止されました。さらに大阪府独自のグループホームバックアップ機能強化費が廃止されるのかなど、予断を許さない状況です。パンジーでもグループホームを7つ運営しているので、そのことが利用者の生活に深刻な打撃を与えかねないこともふまえ、今後の大阪府の動向に注意をむけていかななくてはなりません。

＜施設＞ 大阪府と私たちとの考え方の違いが明らかになりました。大阪府は、入所施設は利用者(家族?)がもっとも安心して暮らせる場所だと認識をしていました。しかし、私たちには、極端なはなし、入所施設は人権侵害、差別、虐待の場になりがちなとの認識もっています。わたしたちが何年も大阪府に対して施設の問題点を訴え続けていたにもかかわらず、今年に入って知的障害者に対する数件の虐待、人権侵害事件が明るみにでています。それが府立の入所施設でおこったとなると、よくもまあ「施設は利用者がもっとも安心して暮らせる場所」と言えたもんだとあきれてしまいます。ただ、大阪府に対して施設の解体を訴えたところで、家族から施設への(幻想にも似た)希望はあり続けるわけで、施設に変わるものをもっと広く、それこそ個人レベルでひろめていかなければいけないとも感じています。

他にも、教育では定時制高校での、知的障害児の定員内不合格問題。就労の要求では、「養護学校は、就労に関するノウハウがあるので」といった地域の支援センター、授産施設等を見捨てた発言も飛び出し、皆でおおいに怒り、抗議しました。

来年度も再来年もずっと続くであろうこの交渉で、パンジーのみんな(支援者、家族、ヘルパーを含む)が他人まかせでなく、自分の言葉で問題を投げかけることの重要性を感じたうえで、参加できるとよいなと感じます。(よし)

時間をかけて厚生労働省と話していかなあかん

ピープルファースト大阪 生田進・梅原義教・宮田隆志・山田浩

9月30日、全国のピープルファーストの当事者と支援者約30人が集まり、厚生労働省と話し合いをした。

北海道の土本さんが司会をした。予定どおり松岡さんが話したところで、障害福祉課の郡司(ぐんじ)課長がしゃべりはじめた。早口で、むずかしい言葉がいっぱい、よく分からない。こっちは順番を決めて、話したいことを話し合ってきたのに先先進めてしまう。静岡の石田さんが「分かるようにいってください」と言ったら、ムキになって言い返してきた。課長は「私も入所施設は作らないほうがいいと思っている」と言ったけど、言ってることはむちゃくちゃやった。

★「AIGOとピープルファーストが合体して、入所施設をみていけばいい」

なんでや！？ 頭にきた。AIGOって施設長の集まりや。施設長に当事者の考えていることがわかるはずがない。ぜんぜんわかってない。でも、緊張してて何も言えなかった。(梅原)

★「全国で6000人の待機者がいるから、来年から一つも作らないわけには行かない」

地域にサービスがあったら、みんな地域で住めるのに。施設に入ってしまったら、出るのがむずかしくなる。作らないほうがいい。★「親がたてろっていうからつくる」って言うけど、親は関係ない。住むのはだれやと思ってるんや。(宮田)

★「地域生活するための予算はたてている。都道府県がやろうとしないだけだ。グループホームを作れとかは各都道府県に言いなさい」

毎年、ちゃんと大阪府に交渉で言ってる。でもなかなか増えへんし、お金も回さへん。厚生労働省が、もっといっぱい言っていかなあかんのんちゃうん。★「国は予算たてるだけで、能力がない」って、厚生労働省の人が自分で言った。あんまりやで。なさけない。(山田)

★「スウェーデンでは入所施設をなくして失敗してるから、マネをしないと決めた」

スウェーデンのように入所施設をなくせて言ったら、こんなこと言ってきた。ほんまに知ってるんかいな。こっちはちゃんとスウェーデンに行って見てきた。日本にはない、うらやましいグループホームばかりやったと言った。スウェーデンの当事者はあんないい家すんでんのに。

★「神戸にの入所施設をこの前見てきた。すごくよかった。あんな施設もたてたらダメなんですか」。そんなん、おれ見てへんから知らんわ。どんないい施設でもごめんや。(生田)

終わって部屋を出たときは気分悪かった。最後に課長はこんなことも言っていた。「みんな、がんばってね」。生田さんが「われらはもちろんがんばるけど、あんたらもがんばってや」と言い返した。こっちは、言われんでもがんばってる。よけいなお世話や。時間をかけて、厚生労働省と話していかなあかん。そうしないとぜんぜんよくなれへんから。あ～、しかし、腹がたつ。

緊急 支援費の問題について おかしい！ 居宅支援の障害区分の設定

支援費の仮単価が発表され、各市町村の申請受付も始まった。支援費制度に対して、いろいろな疑問が渦巻いていたとき、横浜市グループホーム連絡会の室津滋樹さんが厚生労働大臣宛に提出された抗議文を読んだ。

室津さんは居宅介護支援の障害程度区分に関する判断基準が、知的障害をもつ人たちに必要な援助をきちんと反映されていないと書いていた。施設と居宅の障害程度区分の判断基準を並べると、あまりの違いに愕然とした。居宅介護支援の判断基準を見て、“現場を知らないな”と思っていたが、深く考えたり、行動しようとしていなかったことを恥ずかしく思った。

知的障害者が地域で暮らしていくためには、コミュニケーション障害に対する支援や、地域の医療とのファシリテイトが必要だ。自治会と話し合ったり、団地の清掃に参加したりといった地域社会の理解を得ることも、欠かせない。そして、社会参加への支援をはじめ、健康管理、衣服の管理、金銭管理、清潔を保つための働きかけなどが必要不可欠だ。

この判断基準には、それらのことが全く考慮されていない。各市町村への申請は、居宅支援から受け付けていくところが多く、11月には聞き取り調査を始めるところもある。このままでは、知的障害者の地域生活がままならなくなってしまうことさえ考えられる。 (よしだ)

地域生活援助事業（グループホーム）

食事	排泄	入浴	移動	行動障害	一部介助・全介助が3つ以上あるかどうかで判断される
----	----	----	----	------	---------------------------

知的障害者通所授産施設程度区分

生活動作等支援	社会参加等支援
<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事の準備、摂食及び後かたづけに関する支援排泄行為に関する支援 ・ 医療処置、受診等に関する支援 ・ 医師等の診断結果及び説明の理解に関する支援 ・ 健康管理に関する支援 ・ 清潔保持に関する支援 ・ 金銭管理に関する支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 強いこだわり、多動、パニックなどの不安定な行動への対応 ・ 睡眠障害並びに食事及び排泄に係る不適応行動への対応 ・ 自傷行為並びに他人及物に対する粗暴な行為への対応 ・ 日常生活における不安、悩み等に関する相談援助 ・ 余暇活動及び地域の活動への参加等に関する支援 ・ 作業のための動機付けに関する支援 ・ 作業内容の理解に関する支援 ・ 在宅生活に必要な生活関連行為を習得するための支援 ・ 作業のための送迎及び移動に関する支援
<p>※これらの設問に対し「全面的な支援」「ときどき支援」「支援の必要性低い」から選んで点数を付ける。 その合計点で区分される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作業中の安全への配慮 ・ 作業の準備及び後かたづけに関する支援 ・ 作業技術の習得及び作業の遂行に関する支援 ・ 各々の障害に応じたコミュニケーション ・ 代筆、電話の仲立ち等に関する支援 ・ 退所後の生活支援の体制作りに関する支援 ・ 就職先の選定及び就職先との調整に関する支援

書き損じハガキ、(未使用)切手を送ってください!

ご家庭や会社などで書き損じのハガキ、スタンプを押していない切手など眠っていませんか? 自立生活部門ではこれらを集めて活動資金にあてたいと思っています。ご協力をお願いします。

ご協力ありがとうございます

〈後援会費を振り込んでいただいた方〉(敬称を略させていただきます)

中村一成 平野治 橋村年子 北海桂子 竹川節子 中林恵子 中藤加奈子 尾崎文彦

〈カンパ・寄付をいただいた方〉

赤川由里子 イトーヨーカドー労組 中田和伸 橋本訓宏 岩山直功 久保田卓 M. S

長田河合市民法務総合事務所 山崎繁男 矢口功 西野悦子 榎本阿志夫 岡本多恵代

赤川由里子 佐藤かよし 中村美智子 橋本幸子

〈書き損じハガキ・未使用切手・未使用テレホンカードをお送りいただいた方〉

石黒重孝 好川朗 藤原一 水谷

VIDEO 当事者主体と 自己決定をさぐる

グルンデン協会の人たちの活動と暮らしを訪ねて



企画・制作:スウェーデンスタディツアー実行委員会

販売:はっしんきち「ザ☆ハート」

東大阪市荒本2049-4 23-101

TEL 06-6789-6637 FAX 06-6789-6649

上映権付価格:12,000円 個人価格:3,000円

2002年制作 カラー120分

2001年8月10日、知的障害をもつ人たち4名と、支援者13名がスウェーデンに旅発った。出迎えてくれたのは、スウェーデンのグルンデン協会の当事者で理事長をしているハンスと理事のアンナ、そして支援者のアンデシュ。案内人は河東田博さん(立教大学教員)。

スウェーデンへの旅は、日本の知的障害者が自分らしく生きていくために必要なことは何か、必要な支援は何か、社会をどう変えていけるのかを示唆していた。



パンジーでは、
後援会員を募集
しています

賛助会員	1口	1ヵ月	500円
本会員	1口	1ヵ月	1,000円
特別会員	1口	1ヵ月	5,000円
郵便振替番号			00950-1-300551
クリエイティブハウス「パンジー」			

編集人 東大阪市東鴻池町2-4-8
クリエイティブハウス TEL:0729-63-8818
“パンジー” FAX:0729-63-8825

発行人 関西障害者定期刊行物協会
大阪市東中浜2-10-13
緑橋グリーンハイツ1階